

- 国語**→文章作成能力向上に努めた結果、文章量の増加が見られた。反面、段落や句読点など文章作成時の決まりについては、未だ身に付いていない児童も多い。
- 社会**→学習の流れが身に付いた。特に導入を工夫し、児童の興味を引くことができるように教員の経験や児童の経験したことの事例を多く用いて学習に臨んだことで積極的に挙手、発言する児童が増えた。課題としては、調べ学習を行う際に、使用する道具や範囲を狭めても、調べるだけで自身の知識と関連付けて考えることができない児童も多かった。
- 算数**→基礎的基本的な計算が身に付いていない児童が多く見られたため、習熟度別学習でも丁寧に復習を行いながら学習に取り組んだ結果、1学期と比べテストの成績が50点以上上昇した児童が複数いた。まだ、かけ算九九が身に付いていない児童もあり、課題が残った。
- 理科**→理科学習の基礎として、問題、予想、実験、結果、考察、結論の流れを発達段階に合わせて実践を行った結果、自分の考えをノートに書くだけでなく、根拠や理由を自分なりに示しながら学習に取り組める児童が増えた。次年度を見据えて、実験器具の取り扱い方について、一層丁寧に指導を行う必要がある。

I 大田区学習効果測定の結果と概要

- △：正答率の平均が目標値を上回った教科・観点
- ≡：正答率の平均が目標値と同程度の教科・観点
- ▼：正答率の平均が目標値を下回った教科・観点

教科	国語			社会			算数			理科		
全体	△			≡			△			△		
観点別	△	△	△	≡	△	△	△	△	△	△	△	△
	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

- 1 教科全体
- 国語、算数、理科において目標値を上回った。特に国語は約5ポイント、算数は約7ポイント上回っており、教科の正答率内の基礎分野の値が高いことから、4年生の学習範囲については、基礎基本の定着が図られたと考える。
- 社会においては目標値と同程度の値を示している。中でも教科の正答率内の基礎分野が目標値を下回っており、基礎基本をより徹底していく必要があると考える。
- 2 観点別
- ほぼすべての教科と観点の目標値を上回った。特に知識・技能の観点別正答率は全体的に上回った。社会においては知識・技能の正答率は目標値を下回っており、「くらしを支える水」や「ごみのしよりと利用」の値が低かった。調べ学習などを行う際、知識を丁寧にささえる必要があったと考える。

Ⅱ 教科ごとの授業改善プラン

1 国語・社会・算数・理科

【国語】

正答率が目標値を5ポイント上回っていることから、引き続き、文章作成能力と基礎基本の定着を中心に据えて授業を進めていく。知識・技能の分野で、文法事項の設問の正答率が低かったため、物語文や説明文等の大単元の中で、文法事項を丁寧におさえる時間を設け、小単元の言葉の学習で、文法事項をまとめるように学習を進めていく。

【社会】

正答率が目標値とほぼ同じであり、引き続き、導入部分を工夫して児童の興味関心を高められる授業を進めていく。知識・技能分野の向上を図るため、重要な用語を反復して覚えられる時間を設けたり、資料を読み取る機会を意図的に増やしたりした授業づくりをしていく。

【算数】

正答率が目標値を7ポイント上回っていることから、引き続き、習熟度別学習の体制を取り、その中で復習の機会を意図的に増やしていく。知識・技能の分野で、わり算の筆算と平行四辺形の作図の値が低かったことから、計算の機会を増やしていくこと、図形の単元を丁寧に指導していくことを念頭に授業を改善していく。

【理科】

正答率が目標値を3ポイント上回っていることから、引き続き、問題、予想、実験、結果、考察、結論の流れで実験を行っていくことを中心に据えた授業をしていく。知識・技能の分野で季節ごとの動物の様子、1日の月の位置の変化の正答率が低かったことから、授業の中で基礎事項を反復する時間や既習事項の復習の時間を設けていく。

2 音楽・図工・家庭・体育・外国語

	児童の実態	おおむね良好：○ 改善が必要：△	授業改善プラン
音楽	●知識・技能 ・自然で響きのある発声を身に付け、歌唱活動に生かすことができる児童が多い。 ・リコーダーの適切な息の使い方や運指を身に付けて演奏できているが、一部の児童はタンギングをしながら演奏することに努力を要している。 ・旋律の重なり方と曲想とのかかわりに気付くことができる児童と努力を要する児童がいる。 ●思考・判断・表現 ・音楽の仕組みがもたらす曲想の変化を生かして、工夫のある演奏計画を立て、変化のある音楽を演奏することができるが、工夫を自ら考えることに努力を要する児童がいる。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・毎時間の学習を振り返ることで、自分の理解を整理し、次の学習へ向けて見通しをもち、主体的に取り組むことができる。	○ △ △ △ ○	・努力を要する技能については、毎時間の常時活動などで継続的に積み重ねる場を設定する。 ・実感を伴って理解することができるよう、聴くだけでなく、体を使ったり視覚的にわかりやすくしたりする活動を取り入れる。 ・今後の学習にもゆとりをもって取り組んでいる児童の記述を紹介して共有する。

図工	●知識・技能 ・題材に対して、つくり方を理解し、創造的な作品をつくらうとしている。 ●思考・判断・表現 ・自分の思いや考えを言葉で表現し、伝えることが苦手な児童が多い。 ・友人の作品のよさを見付けられる児童は多いが、それを言葉で表現することが苦手な児童が多い。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・色や形に関心を持ち、粘り強く取り組む児童が多い。	○ △ ○	・児童の発想が広がるような題材を準備し、取り組ませる。 ・作品のめあてを意識させ、それにあった振り返りや鑑賞ができるように指導する。また、鑑賞に適した語彙を提示する。 ・児童が興味をもち、意欲的に取り組み、深く追究できる題材を用意する。
家庭	●知識・技能 ・道具の正しい扱い方を身に付けようとし、家庭科で学習したことを土台として家庭生活においても具体的に生かすことが大切であることに気付いた児童が多い。 ●思考・判断・表現 ・日頃の生活において、学習したことを活かした生活の工夫等の発展的活動までできている児童が多い。 ・ボタン付け等で早速、活用している児童もいた。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・裁縫（手縫い）や調理に対する関心が高く、興味をもって実習できていた児童が多い。	○ ○ ○	・技術の向上については、家庭と連携を取りつつ、授業を通して習熟させていく。 ・学習したことを実際の生活に活かせるような学習計画を立てる。
体育	●知識・技能 ・全体的に基礎体力がしっかりと構築されておらず、体幹が弱い児童、微細な運動が苦手な児童がいる。 ・体の使い方など技能面がなかなか定着できない児童も多い。 ●思考・判断・表現 ・カードやタブレット端末に振り返りを書くことができるようになってきている。 ・「うれしかった」「楽しかった」と自分の感覚を述べる児童が多い。 ・作戦タイムにおいて、チームみんなで作戦を考え出す様子が見られるようになってきている。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・前向きに運動に取り組む児童が多い。 ・準備や片づけを友達と協力して進められるようになってきている。 ・技能向上に対して、早い段階であきらめてしまったり、見学をしたりする児童もいる。	△ ○ ○	・体づくり運動や体ほぐし運動を通して、体幹を鍛え、巧みな体の動かし方を身に付けさせる授業を行う。 ・振り返るとき、体の動かし方やチームの作戦、こつ等を具体的に表現していけるように指導していく。 ・運動を楽しめるような雰囲気づくりを心掛け、苦手を感じる児童に、教師や友達の前向きな声掛けを増やしていくようにする。
外国語	●知識・技能 ・自分のことを英語で発表できるようになってきている。 ・英単語をたくさん言えるようになってきている。 ・英単語を書くことが苦手な児童が多い。	○	・英語を書く時間を意図的に増やしていく。 ・表記や文法の決まり事を丁寧におさえていく。

	●思考・判断・表現 ・文法事項を駆使して、自分のことを表現することができる児童が増えてきている。 ・相手を意識したコミュニケーション、聞き手を意識したスピーチができる児童が増えてきている。 ●主体的に学習に取り組む態度 ・異文化に対する興味関心が高い。 ・恥ずかしがらずにに発音の練習ができる児童が多い。 ・ALT に積極的に話しかけようとする児童が多い。	○ ○	・相手に伝えたり、相手を理解したりする楽しさやよさに気付かせられる授業を展開していく。 ・明るく楽しい雰囲気を保ち、意欲的に学習できる授業を展開していく。
--	---	-------------------	--